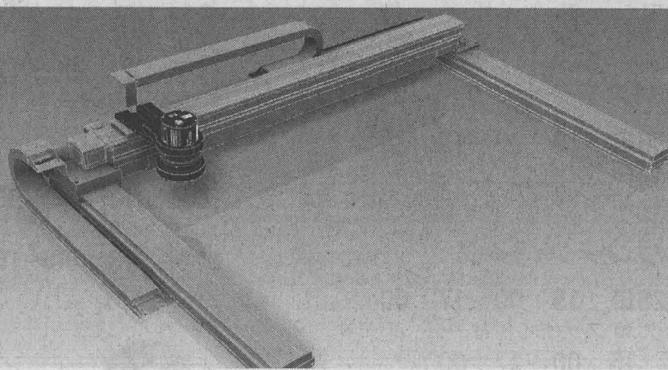




ニシテックなどが開発した色柄センサー（写真上）。色柄センサーの生産ラインへの実装イメー  
ージ



## ニシテックとイマジオム

生産設備などを手掛けるニシテック（茨城県ひたちなか市）は、システム開発のイマジオム（日立市）と建材の微妙な模様や質感の違いを識別できるセンサー機器を開発した。材料の取り違えを防止し、人の目に頼っていた検査を自動化できる。2020年中に販売を開始する。

センサー本体とソフトといった建材を造る事業搭載パソコンの基本セットの価格は340万円から。まず年間10台の販売を目指す。生産ラインや自動化システムへの組み込みも可能で、ドアや収納設備の対象の色柄が登録したも

のと一致するかで判別す

などに売る。  
呂柄センターはまず板  
子を製造する建材各社  
へ登録したうえで、  
家の色柄が登録したも  
のと一致するかで判別す

# 建材向けセンサー

取り違え防止に威力

色柄や質感が似た材料を取り違えてしまうミスがあるという。取り違え防止のため納入前に製品検査をするが、汎用機器では識別できない微妙な色柄の判別は人の目に頼る現場が多い。しかし、自

木目調や大理石調の不均質な模様、壁紙の凹凸模様に加えて普通の黒と光沢のある黒の質感の違いも判別できる。様々な光の当て方をしたときの画像の差異から凹凸や光沢などの情報を得る。

単純な色の判別は汎用機器で広く利用され、色柄識別でも既に別方式の製品が存在するが、このような方式の製品は珍しいという。ニシテックの西川知潮社長によると「建材業界から高い関心が寄せられている」。微

久住絶みた  
大目周

で見極められるペテラン  
は減つており、検査体制  
の維持が課題になつてい  
るとしている。

画像処理の展示会では  
ストッキングや漆器、外  
壁、鉄道車両などを製造  
する富士通の「シカマ」な

た。4年前に茨  
企業振興公社か  
識別センサーの  
案され、新たに  
取り組んだ。

城県中小  
事業とし  
開発を提  
ニシテックが担う。画像  
処理のソフト開発はシス  
テム開発のイメージが  
手掛け、共同で特許も出  
みとなつてゐる。

星 鉄道車両などを製造する事業者からも様々な相談が寄せられた。対応が難しいものもあるが、決まった方法で塗装などをしている工業製品には応用できるとみる。

ニシテックは国内外の部品調達に強みを持ち、日立製作所系の企業を中心的に生産設備を請け負ってきた。しかし、調達網の競争力はいすれ低下すると危機感を持つてい

1 \_\_\_\_\_

色柄や質感が似た材料を取り違えてしまうミスがあるという。取り違え防止のため納入前に製品検査をするが、汎用機器では識別できない微妙な色柄の判別は人の目に頼る現場が多い。しかし、目